

令和6年度第1回 知多市地域公共交通会議 要旨

○日 時 令和6年6月4日（火） 午前10時～午前11時40分

○場 所 知多市役所 3階 協議会室

○出席委員 22名

- ・知多市 副市長 立川 泰造
- ・東部コミュニティ 会長 谷口 静子
- ・岡田コミュニティ 会長 竹内 淳介
- ・南粕谷コミュニティ 会長 鈴木 孝昭
- ・旭東コミュニティ 会長 門井 真二郎
- ・知多市社会福祉協議会 会長 渡辺 正敏
- ・知多市観光協会 会長 酒井 清
- ・知多市商工会 青年部長 上村 卓也
- ・名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授 松本 幸正
- ・知多乗合株式会社 代表取締役社長 金森 隆浩（随行：橋本 大輔）
- ・レスクル株式会社 代表取締役 鶴田 誠（代理：服部 佳代）
- ・公益社団法人愛知県バス協会 専務理事 小林 裕之
- ・愛知県タクシー協会 知多支部長 藤田 和弘
- ・名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部 地域連携部 交通サービス担当課長 高井 勇輔（代理：夫馬 康昌）
- ・愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事 桑山 忍
- ・中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官 宮川 高彰（代理：渥美 宏）
- ・愛知県都市・交通局 交通対策課 担当課長 石屋 義道（代理：常本 久美）
- ・愛知県知多建設事務所 維持管理課長 伴野 誠司（代理：若山 明裕）
- ・愛知県知多警察署 交通課長 佐藤 賢治
- ・知多市 都市整備部長 細川 賢弘
- ・知多市 福祉子ども部長 花井 佳世

・知多市 環境経済部長 竹内 和彦

○欠席委員 1名

・八幡コミュニティ 会長 伊達 八穂

○傍聴者 11名

○事務局 8名

・企画部長 林 和宏

・市民協働課長 平岩 佳代

・市民協働課 青木 優

・市民協働課 竹内 俊介

・市民協働課 宮崎 彩寧

・市民協働課 小林 宙

・都市計画課長 市川 隆人

・都市計画課 早川 康裕

○説明者 2名

・東浦町 都市整備部 まちづくり課 渡邊 将人

・東浦町 都市整備部 まちづくり課 中山 祐輔

会議の経過及び発言の要旨

1 あいさつ

【副市長】

日頃から市政運営に格別のご協力をいただき、心から感謝申し上げます。本日は、協議事項の一つとして、知多市地域公共交通計画の策定を議題として取り上げる。

近年では急速に高齢化が進んでいることで、日常生活における移動手段を確保する必要が生じている。人口減少や環境への配慮等の新たな課題も生じており、公共交通に求

められる役割は重要になっている。

こうした中、本市ではより快適で利便性の高い公共交通の実現と、実情に即した持続可能な公共交通サービスを構築するために、地域公共交通施策のマスタープランとなる知多市地域公共交通計画を策定する運びとなった。

計画策定には地域交通法による法定協議会を設置する必要があるので、昨年度の地域公共交通会議に諮り令和6年3月から構成委員を新たに4人拡大し、本市の公共交通の在り方を検討する体制に移行している。委員の皆様からの忌憚のないご意見と活発な議論をお願いしたい。

2 委員委嘱

(新しい委員の委嘱)

3 副会長の指名について

地域公共交通会議設置要綱第3条第4項に基づき、会長が松本幸正委員を副会長に指名。

【委員】

中部運輸局の「活発で良い議論ができる会議のために」の冊子について説明。公共交通については、鉄道、バス、タクシー、それぞれ役割のもとで公共交通を担っているもので、この地域が5年後、10年後、より良い、住みやすい町になっていくために、公共交通をどうしたら良いかということ積極的に意見交換されたい。

4 協議事項

(1) 知多市地域公共交通計画の策定について(資料1)

【事務局】

●知多市地域公共交通計画の策定について(資料1-1)

- ・地域公共交通計画は、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランとして役割を果たすもの。
- ・本市としても、公共交通の様々な課題への対応と、将来のまちづくりと連携した持

続可能な地域公共交通ネットワークの形成のため、計画を策定し、本市にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿の実現を目指す。

- ・公共交通に対する国庫補助金は、令和2年の法改正により計画の策定と補助制度が連動化。補助金を活用して公共交通施策を講じていくため計画を策定する。
- ・知多市地域公共交通計画策定等支援業務委託について、公募型プロポーザル方式により業者選定委員会を令和6年5月に開催。その結果、株式会社国際開発コンサルタンツ名古屋支店を支援事業者に決定した。
- ・策定に向けたスケジュールについて、令和8年3月に計画完成を予定しており、2か年にわたって策定する。計画の期間は令和8年4月から令和13年3月までの5か年となる。
- ・令和6年度は知多市の現状等を整理するほか、地域公共交通の利用実態分析、交通事業者や企業、福祉団体などの関係者へヒアリングを実施する。
- ・公共交通の利用実態の把握や分析は、乗降調査やバス利用者アンケートのほか、市民アンケート調査を行う。
- ・調査結果等を踏まえて地域公共交通を取り巻く課題を整理し、目指す将来像や基本方針等の設定、目標を達成するために行う事業等について検討し、計画の素案を取りまとめ、第3回会議で皆様にお示しする予定である。
- ・令和7年度は市民の意見を反映した計画とするために、市民ワークショップを開催し、パブリックコメントを経て、計画の最終案を作成する。

●知多市地域公共交通計画に係る調査事業について（案）（資料1-2）

計画の策定に係る調査として6項目の調査を行う。

・バス乗降調査

調査時期は6月で、あいあいバスと路線バスの平日休日の各1日全便全利用者について、職員がバス車両に乗り込んで調査票を配布し、降車する際に回収する方法で調査する。路線別、便別、停留所別の利用実態や公共交通相互の乗継利用などを把握することを目的として行う。

・バス利用者アンケート

調査時期や対象は乗降調査と同じで、調査票を乗車時に配布し、後日郵送やウェ

ブで回答してもらおう。サービス項目別の満足度や改善点の把握を目的として行う。

- ・市民アンケート

調査時期は8月で、15歳以上の市民2,000人を対象に調査票を郵送で配布し、郵送やウェブで回答してもらおう。市民の日常的な移動実態と公共交通の利用意向などの把握を目的として行う。

- ・中学生・高校生アンケート

調査時期は9月で、市内の中学校5校と知多翔洋高校の生徒を対象に、ウェブでアンケートを行う。配布人数などについては、今後各学校と調整していく。中高生の移動環境における課題と、知多市に住み続けるために必要な公共交通の把握を目的として行う。

- ・高齢者アンケート

調査時期は8月で、65歳以上の市民1,000人を対象に調査票を郵送で配布し、郵送やウェブで回答してもらおう。高齢者の移動に対する困りごとや公共交通の利用意向等の把握を目的として行う。

- ・関係者ヒアリング調査

アンケート調査の結果を踏まえ10月頃に行う。対象は交通事業者や企業、福祉団体、地域バス関係者と市役所の関係課で、質問票を事前に送付し、ヒアリングを行う。公共交通の安全性や定時性の課題、利便性向上に資する施策案の把握を目的として行う。

- ・調査項目について

乗降調査と利用者アンケートは、最終案をお示ししている。市民アンケート調査や関係者のヒアリングの調査項目については、今後内容を精査する予定で、皆様からのご意見を取り入れながら調整を進める。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

公共交通計画策定に当たって、市民や利用者の意見を反映することが重要となる。1年目はアンケートを含めて基本的な利用実態等の現状把握をし、大体の素案まで今年度中に作り上げていく。2年目はワークショップなど市民の方々と直接的な対話をする場を設

け、直接的に利用者の方々の意見を聞きながらブラッシュアップしていく。最終的にはパブリックコメントで広く市民の方々から意見を伺う形となる。

これは市の計画であるが、この協議会で皆さんと共に策定することとなる。また、民間の路線バス、あいあいバス、タクシー、地域交通、さらには名鉄の鉄道も含んだ、各地域で行っている色々な取組を全て含んだ計画である。その関係者が一堂に会して皆で合意する我々の計画となるため、適宜、意見交換を図りながら進められたい。

【委員】

調査票はどれくらいの回収率を見込んでいるか。

【事務局】

調査内容によって、直接回収や後日郵便での回収など様々な方法を予定しているため、それぞれで回収率は異なると思われるが、3割程度の回収率を見込んでいる。

【副会長】

3割をベースに回収できれば、調査精度がある程度確保される。バス乗降調査は平日休日各1日ずつ、降りる際に回収するので全回収となる。バス利用者アンケートは全員に配布するが、回収率は最低でも3割を見込んでいる。市民アンケートは2,000人の3割で、約600票の回収を想定。中高生アンケートは、各学校にご協力をいただかなければならないので、調査精度という意味では今のところ不透明である。高齢者アンケートは1,000人の3割で約300票の回収を想定。

一般的に、満足、やや満足、普通、やや不満、不満の5段階評価を正しい割合で出すには100票、男女別や高齢者と非高齢者別の場合は200票くらいあれば良いだろうと言われていいる。今回300票を見込んでいるので、大体の精度は確保できるだろうとご理解いただきたい。

【委員】

関係者ヒアリング調査の交通事業者の中にタクシー事業者は入っているのか。対象としているのであれば、各会社で業務体制も異なるので個々に調査票の配布をお願いしたい。

【事務局】

会議委員のバス事業者、タクシー事業者、鉄道事業者、それぞれにヒアリング調査を実施したいと思っているのでご協力をお願いしたい。タクシー事業者への調査については、タクシー協会を中心に依頼したいと考えている。

【委員】

公共交通計画の策定のプロセスについて、市民や利用者等と直接対話して生の声を聞くのは計画案ができてからで、その前の段階ではアンケート調査の回答のみとなるが、このような流れになった理由はなぜか。

【事務局】

計画策定のスケジュールは6年度と7年度の2年間あるので、1年目にアンケートや乗降調査等の調査事業を実施して現状を把握した上で、2年目にワークショップやパブリックコメントで市民の方の声を聞く流れでスケジュールを組んでいる。

【副会長】

様々な進め方があると思われる。例えば1年目にワークショップを開きながら、現状のあいあいバスの問題点について、直接利用者の方々から声を聞く、あるいは先に交通事業者ヒアリングするなど。ただそれは個別の意見に偏る可能性もあるので、知多市の場合は、まずは全体としての問題点をアンケート等で明らかにした上で対応策をお示しし、その後、直接的に利用者の方々にこの対応策で十分かを聞くスケジュールとなっている。

余裕があれば、何回も地域の方々とは対話しながら行うと良いが、事務局の方々も大変だと思うので、こういう形にならざるを得なかったとご理解をいただきたい。1年目に現状分析し、ぜひ、2年目のワークショップには多くの方々にご参加いただきながら開催できるよう準備されたい。

なお、6月に実施するバス乗降調査と利用者アンケートに関しては、資料1—2の調査項目を最終確認した上で準備を進められたい。

市民アンケート、中高生アンケート、高齢者アンケートに関しては、期間に余裕があるので、お持ち帰りいただき、十分か、足りているか、委員の方々のところへ届く可能性も

あるので、そういう目で見ていただき、お気づきの点があれば事務局にお寄せいただきたい。期日はどうか。

【事務局】

お気づきの点があれば、6月中までをお願いしたい。

【副会長】

特に異論等々がないようなので、ワークショップに関しては2年目に具体的な方法をこの会議で決めるとして、基本的にこの形で進めるということで皆様ご承認いただくということによろしいか。

【委員】

(一同、異議なし)

(2) 東浦町コミュニティバス(う・ら・ら)の知多市内への乗り入れについて(資料2)

【事務局】

他市のコミュニティバスが隣接する自治体へ乗り入れる際には、それぞれの自治体の地域公共交通会議で協議を調える必要がある。この度、東浦町のコミュニティバスが、知多市に乗り入れることから協議をお願いするもの。

【説明者】

令和6年10月1日からの東浦町コミュニティバス(う・ら・ら)のルート改正に合わせて、知多市内の巽ヶ丘駅東側にバス停を新設し、乗り入れを行う。

- ・バス停名は巽ヶ丘駅で、東浦町、知多市、阿久比町をまたがるルートとなり、相互利用など地域間交通ネットワークを形成することを目指したい。なお、バス停の所在地は阿久比町。
- ・巽ヶ丘駅に接続するダイヤについては藤江線と新田線で、藤江線の緒川駅東口行きが平日8便、巽ヶ丘駅行きが平日10便。新田線の緒川駅東口行きが平日8便、巽ヶ丘駅行きが平日9便運行予定。

- ・令和6年度第1回東浦町地域公共交通会議にて関係各所と事前協議を行い、いずれも支障はなし。
- ・この会議とは別に運賃料金協議会を開催する予定で、新規路線に伴うダイヤ改正後の運賃を100円にすること、ICカードによる支払いを可能にすること、知多バス東ヶ丘団地線の運賃を100円に変更し、変更に伴い各券種の料金設定を行うことを協議する予定。また、改定案については、ホームページにて住民の方の意見募集を行う。
- ・今後について、ルート改正について広報誌等で周知し、令和6年10月1日に巽ヶ丘駅前ロータリーにて出発式を行う予定。巽ヶ丘駅周辺にお住まいの方や、アクセスしやすい知多市民の方にも、便利にう・ら・らを利用していただきたい。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

どちらの住民の方もバスを利用できるか。また、バス停は駅の東側と西側に設置しているため、乗り換えする際は、少し歩いて、線路を渡って、移動する必要があるか。

【説明者】

東浦町民、知多市民関係なく、バスを利用できる。バス停は横並びではないため、乗り換えする際は、少し移動していただく必要がある。踏切があるので、徒歩で線路を渡っていただき、それぞれのバスをご利用いただきたい。

【副会長】

運賃の割引や無料対象者は東浦町民に限らず、障がい者手帳をお持ちの方や未就学児等、知多市民にも適用されるのか。

【説明者】

同じように適用される。

【副会長】

う・ら・らを利用すればJR武豊線に乗り換えできるようになるが、巽ヶ丘駅のバス停

からJRの駅までの所要時間はどれくらいか。

【説明者】

所要時間は45分くらい。

【副会長】

少し遠いが、途中にイオンモールなどもあるので、知多市民の方が利用しやすくなると思う。東浦町の方々には、ぜひ、あいあいバスを利用して梅まつりなどにも来ていただくと良い。他市町とつながるのは良いこと。

【委員】

補足として、知多バス東ヶ丘団地線とう・ら・らのバス停を統一する形で再編し、運賃についても定期外の1乗車100円は協議が整った。障がい者や定期券等の料金は、運賃協議会などで、詳細について決めていくこととなる。東ヶ丘団地の住民の方からすれば本数が倍以上になり、路線バスとコミュニティバスが連動した路線と理解している。

【副会長】

知多バスの東ヶ丘団地線とう・ら・らの同じ区間が同じ料金体系になるのは素晴らしい。地域の方々は大変喜ばしい。競合ではなく協調という形で良いと思う。せっかくのことなので、お互いの住民の方へ周知してもらいたいが、どのような考えか。

【説明者】

東浦町では、バス車内等で周知し、住民説明会の場を設けて説明していく。また、広報誌にも今回のダイヤ改正によって巽ヶ丘駅にも乗り入れる旨を掲載する予定。

【事務局】

知多市内にう・ら・らが乗り入れるので、バス停位置や乗り継ぎについてあいあいバス「巽ヶ丘駅西」バス停に掲示するなど周知したいと考えている。

【副会長】

ぜひ、お互いに周知をお願いしたい。できれば知多市にはう・ら・らの時刻表、路線図、東浦町にはあいあいバスの時刻表、路線図を配布してもらいたい。少なくともお互いの市役所には時刻表、路線図が配架されていると良い。

その他はよろしいか。特に異論ないようなので、東浦町コミュニティバス(う・ら・ら)の知多市内への乗り入れについては承認いただけただけということではよろしいか。

【委員】

(一同、異議なし)

5 報告事項

(1) 市内バス路線の実績について(資料3)

【事務局】

●コミュニティ交通あいあいバスの実績

・1 ページ上段、あいあいバス全体の年度別利用者数の推移について

令和5年度は、12万1,634人で4年度と比べ、7,164人、約6%の増加となり過去最多の利用者数となった。また、全体の57%が無料利用分、43%が有料利用分である。

・1 ページ下段、コース別の年度別利用者数の推移について

全コースとも令和2年度以降増加傾向にある。

・2 ページ、コース別の月別利用者数の推移について

令和5年度は、4年度と比べ全コース共通しておおむね各月で利用者数が増加している。また月別では、10月は、3コースとも共通して利用者が多く、2、3月は北部循環コースの利用者が多い傾向にあった。要因として、10月は産業まつり、2、3月は梅まつりが開催されたことが挙げられる。

・3 ページ上段、あいあいバス全体の年度別運行収入の推移について

令和5年度の運行収入は528万8,600円で、4年度に比べ48万5,200円増収した。

・3 ページ下段、無料あいパスの発行実績について

令和元年10月の制度の拡充以降、累積発行実績は、令和5年度末で4,576人となった。

申請については、対象者本人が身分証明書を持参することにより市民協働課で手続きを行うことができ、後日発行を行う。

●バスロケーションシステムを活用したデータ

・ 4 ページ上段、システム閲覧件

令和5年度のサイト利用者数は3,480人、システム閲覧件数は7,952件の利用があった。

・ 4 ページ下段、システムの活用（積雪時）

積雪により、バスに遅れが発生した令和6年1月25日は突出して多くの方がシステムを利用している。また、イベントや工事に伴う交通規制等のお知らせを表示することができる。

・ 5 ページ、システムの活用（便ごとの利用状況）

各コースの平日ダイヤの各便の利用の割合をまとめたもの。南部コースは、5便までの午前中の利用が多く、その中でも1、2便に朝倉駅を目的地として利用する方や、2便にイトーヨーカドーの営業開始の9時に合わせて利用する方が目立った。北部循環コースは、系統1が2便の知多翔洋高校前を目的地とした利用が多く、系統2は全ての便がまんべんなく利用されていることが明らかとなった。

●路線バスの実績

市で路線を維持するための運行補助を行う、知多乗合株式会社が運行する岡田線、佐布里線、日長団地線の各路線の実績について報告する。

・ 6 ページ上段、年度別利用者数の推移について

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度、令和3年度は利用者が大幅に減少したが、令和4年度から回復傾向が見られ、令和5年度の速報値は17万人となった。路線ごとの利用者数も、全路線共通して回復傾向であるが、新型コロナウイルス感染症流行以前の令和元年度の数値と比較して、岡田線は約52%、佐布里線は約66%しか利用者が戻っていない結果となった。

・ 6 ページ下段、年度別運行補助金の推移について

路線バスの運行補助金は、前年度の6月に実施する乗降調査、翌年の決算時の運行状

況を基礎に算出している。令和6年度の補助金額の概算の速報値は4,400万円となっており、昨年度と比べ345万9,000円減額する見込み。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

あいあいバスに関しては順調に回復してきており、無料あいパスの拡充が利用者増の要因と考えられる。有料利用分については、コロナ禍前までには届かないものの、2年度以降は順調に伸びてきているのは喜ばしい。一方、知多バスは苦戦している。岡田線、佐布里線の回復率は約60%という話だが、その要因は減便の影響なのか。

【事務局】

減便もあるが、この数字はまだ速報値で、昨年6月の乗降調査を基礎値として年間の推計で算出しているの、確定すれば数字も変わってくると思う。路線バスは通勤通学に利用する方が多いので、働き方改革等でバス利用が戻ってきていないと考えている。

【副会長】

確かに他のところでも約80%がほとんどで、良くて90%。100%まで回復しているところはほぼないが、それにしても戻りが遅く、少し心配である。減便の影響は大きいと思うが、皆に利用してもらうような方策をもっと考えなければならない。あいあいバスのバスロケは、市民の皆さんはご存じか。使わなくてもバスロケがあることを地域に持ち帰って皆さんに伝えていただきたい。簡単に使えるのか。

【事務局】

資料のQRコードを読み取ってもらえばサイトにつながるの、皆さんご利用いただきたい。

【副会長】

高齢者の方向けに、インストールの仕方やQRコードの読み方なども広報しているか。

【事務局】

無料あいパスの申請に来た方にもPRしており、スマートフォンを使わない方には電話で事務局からバスの運行情報を伝えている。スマートフォンを使う方には窓口でレクチャーしながらQRコードを読み取ってもらうことをしている。

【副会長】

職員が窓口などで直接インストールの仕方を教えてくれるのは素晴らしく、重要なこと。徐々に利便性向上につながると思うので、そういう労力を惜しまずをお願いしたい。路線バスについては、引き続き推移を見守りながら岡田線、佐布里線をしっかり確認していきたい。

(2) 地域バスの実績について（資料4）

【事務局】

- ・地域バスは、市が普通自動車1台とドライバー1人をコミュニティに提供し、コミュニティが地域の実情に即したダイヤやルートなどの運行プランを策定する、市とコミュニティが協働で運行している交通である。
- ・令和3年度から東部、旭北、南粕谷の3つのコミュニティにおいて取り組まれており、ルート・ダイヤ等の運行プランの検討が進められてきた。
- ・1日あたりの利用者数15.5人を目標値として定め、運行プランと利用実態を検証しながら運行している。

●東部コミュニティ

令和5年1月から3月までの利用者数が本運行への移行基準を満たしたため、同年5月1日から本運行へ移行。コミュニティ内を2地区に分けて日替わりで運行しており、北コースは毎週月曜日と金曜日、南コースは毎週火曜日と木曜日の週4日運行している。直近の実績は、令和6年4月まで15か月連続で目標値を達成中。

●旭北コミュニティ

令和5年3月から5月までの利用者数が本運行への移行基準を満たしたため、同年12月1日から本運行へ移行。コミュニティ内を3地区に分けて日替わりで運行しており、長浦コースは毎週火曜日、日長コースは毎週水曜日、新舞子北コースは毎週金曜日の週3日運行している。直近の実績は、令和6年4月まで13か月連続で目標値を達成中。

●南粕谷コミュニティ

令和5年3月28日から実証運行を開始し、1年間実施したが、本運行への移行基準を満たすことができなかつたため、令和6年3月29日をもって運行を終了した。南粕谷コミュニティでは、運行終了の周知や地域バスの看板等を設置させていただいた方やスーパー、クリニックへのお礼等の対応と、実証運行の評価を行うため、コミュニティ内の住民を対象にアンケート調査の調整を行っている。

【委員】

昨年5月から本運行を開始している。各コース週2日で運行しており、徐々に乗車数は増加している。また、今年の3月に車両の変更があり、ステップがついている車両に変わったことにより、乗り降りがしやすくなったという利用者からの声もある。

【副会長】

好評ということで、引き続き皆に利用してもらいたい。

【委員】

残念ながら1日あたりの15.5人をクリアできず、運行終了となった。南粕谷地区は、あいあいバスや新日鉄の鯨バス、コミュニティ組織のおたすけ会などを活用されている方が多く移動ニーズにある程度対応できていると思われる。また、コミュニティ側としては少しアナウンス不足だったかもしれないので、これから市役所の方とアンケート調査を行って原因究明していくので、それを見て再度チャレンジしたい。

【副会長】

路線バスもあり、地域の支え合いが機能していることも大きい。再チャレンジとあったが、今後基準値を見込める何かがあれば再チャレンジも可能な仕組みなのか。

【事務局】

再チャレンジについては、検討していきたい。

【副会長】

ぜひ、お願いしたい。すぐには無理であろうが、さらに高齢化が進んで免許返納者が増え、移動に困る方が増える。その中で、地域として皆で盛り上げていこうという機運が高まれば、再チャレンジをしてもらいたい。基準を超える可能性が出てきたら挑戦できるというのは大事である。前向きに検討されたい。この3地区以外は、まだ声が上がってきていないとのことだが、機運が盛り上がったときには事務局に相談してもらいたい。

(3) 令和7年度（地域間幹線系統）生活交通確保計画について（資料5）

【事務局】

- ・コミュニティバスの北部循環コースは、複数市町をまたぐ地域間幹線系統として、地域間幹線系統確保維持費国庫補助金の交付を受けている。この度、令和7年度の地域間幹線系統への位置づけに必要な生活交通確保計画を策定し、愛知県公共交通協議会に提出したため、その内容について報告する。
- ・利用者としては、公立西知多総合病院への通院需要、知多翔洋高校生の通学需要、鉄道への利用や自動車を所持していない方の買い物利用等を見込んでいる。
- ・令和7年度の利用者数の目標は、令和6年度の6万2,200人から年1%増の6万2,800人としている。
- ・利用促進策として、関係市町との情報交換や、バスロケーションシステムの積極的なPR、バスの利用方法の啓発により努めていく。
- ・生活交通確保計画は、愛知県公共交通協議会から国に提出され、国の承認を得ることにより国庫補助の対象として認められる見込み。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

知多市はこれから計画を策定するため、暫定措置的に愛知県公共交通協議会を通じて提出している。なお、北部循環コースは阿久比町と東海市を結んでいるので、国の補助対象になるが、赤字幅を減らすための利用促進を具体的に位置づける必要がある。今回の目標は6万2,800人で毎年1%増とするが、それを関係市町との情報交換、バスロケーションシステムのPRで行う計画である。引き続き、利用促進の施策を検討されたい。

(4) 東海市コミュニティバス（らんらんバス）の知多市内への乗り入れに係る運賃協議の結果について（資料6）

【事務局】

- ・東海市コミュニティバスについても、令和6年10月1日のダイヤ・ルートの改正に伴い知多市へ乗り入れを行うため、その内容について事前にお諮りし、この度乗り入れに必要な協議が整ったので、本日はその結果を報告する。
- ・路線の乗り入れ（乗合旅客の態様）に係る協議については、令和5年度第2回の知多市地域公共交通会議において既に承認された。
- ・運賃・料金等に係る協議については、道路運送法により運賃料金部会における協議が必要であるため、設置要項第7条に基づく運賃料金部会により、東海市コミュニティバスの運賃料金等について書面協議を行った。
- ・結果は、令和6年度第1回知多市地域公共交通会議運賃料金部会を書面により開催し承認された。また、運賃協議が調ったことの証明書については、東海市地域公共交通会議に送付済み。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

これまでは公共交通会議で合意をすれば運賃を決められたが、独占禁止法に触れる可能性があるため、運賃だけはこの会議とは別に決める仕組みになった。

6 その他

【事務局】

●「はじめよう！路線バス通学」チラシについて

- ・公共交通の利用促進、子育て世代の負担軽減を目的として、市内を運行する路線バスの通学定期券の購入費用を補助する事業を今年4月から開始している。
- ・補助金額は定期券購入額の3割で、令和6年度の補助対象期間は、令和6年4月1日から令和7年3月31日まで。
- ・対象路線は知多乗合株式会社が運行する岡田線、日長団地線、佐布里線、朝倉団地線の4路線で、対象者は、市内在住の方、小学校、中学校、高校、大学等に通学している方、令和6年度末までに満7歳以上満24歳以下の年齢となる方のいずれにも該当する方である。
- ・現在の申請件数は、昨日時点で3件。バス停やバス車内へのチラシの掲示、申請された方から口コミで呼びかけていただくようお願いをしながら、少しでも多くの方にPRしていきたい。

<主な質疑、意見等>

【副会長】

通学定期の補助はとても良い仕組みだが、申請件数3件は寂しい。定期を買う時期には補助制度を開始していたか。

【事務局】

今年の4月から受付を開始している。申請は年間通じて出来るので、手元に定期券の写しがあれば、補助対象となる。

【副会長】

もっと上手く伝えていきたい。やはり知多市にも若い子達に住んでもらうのは大事なので、こういう取組はとても大きい。保護者の方に届くよう広報誌やSNS等で上手く周知されたい。地道に広報し続けてほしい。

●その他意見等

【委員】

今回初めて出させてもらい、非常に参考になることが多くあった。帰宅後にバスロケーションのインストールを試してみる。通学定期券の話もとても良いと思った。上手く進むことを期待している。

【副会長】

ぜひ、コミュニティでも宣伝をお願いしたい。3割の補助を使わない手はないので、お願いしたい。

【委員】

路線バス通学定期券について、コミュニティで回覧したが、自治会加入率が5割程度なので、子育て世代の若い世帯に届いていないと思われる。そういった方にもアピールできると良いと思う。

【副会長】

自治会加入率が低いということだが、市民協働課として何かしているのか。

【事務局】

自治会加入率、コミュニティの加入率は、全国的にも年々減少傾向にあり、地域の方もとても危機感をお持ちで、コミュニティの連絡協議会等でも議論になっている。コミュニティとして、市として何が出来るのかは継続してアイデアを出しながら対策したい。

【副会長】

ぜひ、お願いしたい。やはり、地域の交通を考える等、地域の力はとても重要。何事にも基盤となるので、そちらの面も頑張ってもらいたい。

【委員】

初めて会議に出させていただき、知多市でこういう取組みがあることを知った。現役世

代なので全く気にもかけていなかったが、とても勉強になった。やはり現役世代の方にも理解していただけるよう、アナウンスをすることが大事だと思う。

【副会長】

その通りだと思う。普段は車を利用していても、たまにはバスを使ってもらうだけでもありがたい。

【委員】

旭東コミュニティは、日長台、旭桃台、大興寺地区の3つの地区で構成されている。知多バス日長団地線が、今年3月から従来ルートの日長台に加え、旭桃台と大興寺地区の一部を経由して、新舞子駅に戻るという路線に変更されて、特に旭桃台地区の方から非常にありがたいという声を聞いている。この会議で検討された結果でありがたく思う。

【副会長】

好評で良かった。またダイヤ等への声があれば報告してほしい。

その他、意見等無し。会議終了。